

会 誌

第四十三号

平成 23 年 12 月

大阪市立大学大学院医学研究科
分子病態薬理学教室 同窓会

はじめてのアメリカ

山本 研二郎

私がはじめて海外旅行したのは1964～65年(昭和39～40年)のことである。当時、大学に海外出張の制度があって、250万円の旅費で1年間どこへでも留学してよろしいということである。そこでレニンの分泌機序を研究していたミシガン大学のDr. Vanderに連絡して1年間留学することになった。当時1ドル360円の固定相場制で、海外への現金の持ち出しは500ドル以下と定められていた。

大阪駅(新幹線はまだ開通していなかった)まで上田教授はじめ教室員総出で送り出してもらい、家内は子供をつれて東京まで見送り、兄の家に一泊して翌日の夕方、羽田空港よりホノルルへ向かった。当時の飛行機は航続距離が短く、太平洋をひと飛びで横断できなかった。たまたま機内で知り合った日本大学生理の円谷(ツブラヤ)助教授(日本の特殊撮影の草分け円谷監督の実弟)がホノルル空港に着いたとき、我々の乗ってきた飛行機を指して、「えっ、これが私達の乗ってきた飛行機ですよ、プロペラがないんですか?」と真面目な顔して尋ねたことを覚えている。

空港からタクシーで予約したホテルに無事到着し、2階の部屋で旅装を解いた。9月中旬といえども蒸し暑く、早速シャワーを浴び、パンツ1枚で窓の外を眺めながら、これが有名なワイキキ海岸かと思った。日本と全く異なる景色を確かめようと、ドアを開けてベランダに出て、深呼吸した途端に風が吹いてきてドアが閉まった。これは困った。押せども引けども無情にびくともしない。自動ロックなど日本にない時代、ガラス窓を割って入るわけにもいかないし、地上に飛び降りるには高すぎる。アメリカへ来た初日から何と不運なこと。ここは落ち着いて行動しなければと気を取りなおし周囲を見ると板張りのバルコニーはずっと続いていて、端の方は階段で地上に降りられるようになっている。これでやっと脱出できることになった。

地上に降りて、さきほど入ったホテルの入り口までかなりの距離がある。海岸近くなので水着姿の男女が大勢歩いているがカラフルな海水パンツに日焼けした立派な体格ばかり。彼等と比べると、小生は日焼けしていない貧相な体格で白いパンツは如何にも映りが悪い。まあいいかと思って、ホテルの入り口に向かい、さてフロントで「鍵を部屋に置いたままベランダへ出てしまった。スペアキーを借して下さい」と英語で何と言うのかと考えながらデスクに近づくと、中年の女性が無言でサッと鍵を差し出してくれた。Thank you, Thank you.何も言わんののに気の利く人。小生の姿から一目瞭然なのか、同じような失敗をする人が多いのかなあと思いながら有難く部屋へ入った。

ホノルルからシアトル経でデトロイトに着き、やっとミシガン大学のあるア

ンナーバーに到着した。2 日ほど休養してから生理学教室の Dr. Vander の部屋に参上した。にこにこ笑って初対面の挨拶をするなり、「Dr. ジェンジ・テールは読んだか」と聞いてきた、ジェンジ・テール？レニン・アンジオテンシン関係でそんな文献があったかなあと思いながら黙っていると、再びジェンジ・テールと言って目をのぞき込む。しばらくして、「ジェンジ・テール？聞いたことない」と言うと、メモ用紙を取り出して G と書き、「これは日本では何と発音するのか」と尋ねる。「G はジーと発音する」「うん、それならジェンジ・テールでよい」これは困ったことになった。一年間この研究室に滞在するのに最初からこれでは先が思いやられる。すると Dr. Vander は G の次に enji Tale と書き、「日本人はこの小説をよく読むのところがうか」「Genji Tale, 源氏物語。我々日本人はゲンジと発音する」「実は家内が大の日本びいきで、図書館で借りてきた Genji Tale を読んでいる。日本人が来たらいろいろ質問したいと心待ちにしている。」「いやー、女性は大抵読んでいるが、男はあんまり読まんです」私のミシガンでの会話はレニンからではなく文学から始まった。

クリスマスに学長が New comers を公舎に招待してくれた。背の高いドイツ人が近づいてきて、「東西ドイツに分割されて、自分の育ったライブチヒはソ連の管理下になった。かつての栄光はすっかり失われた。日本は平和でいいな」と喋りながら涙を流していた。余程悔しかったようだ。

当時、大阪市は給料を月 2 回にわけて支給していた。助手の岸本君（後の泌尿器科教授）がその度に留守宅まで届けてくれた。家内は現金の入った給料袋に感謝し、子供達は手土産のお菓子を楽しみにしていたようだ。ところが、12 月末と 3 月末に調整と称して税金の還付があった。これは飲み屋のつけに廻すのが慣例であったが、家内になると、「こんな臨時収入があったんですか」ということで岸本君のお陰でばれてしまった。

アメリカからの帰りに、羽田空港まで岸本君がわざわざ迎えに来てくれた。私は大阪に帰る前に家族と一緒に箱根に寄ったので、大きい荷物を先に大阪まで運んでくれた。有難いことである。

Vander とはその後も何回か会っている。帰国後、4 年目の 1969 年京都で“レニン分泌の調節”と題して日米科学セミナーを開催した。アメリカ側 6 名、日本側 7 名、他にオブザーバー数名、アメリカ側は全てユダヤ人であった。セミナーの後 Vander 夫妻を奈良へ招待した。唐招提寺でのこと、お堂の廊下に坊さんの木像が置いてあった。Vander がこれが鑑真かと尋ねたので、そうだろうとあいまいな返事をする、奥さんが近づいてきて、これは鑑真とは違う。彼は日本に来たときは盲目になっていたはずだ。これは目を開いている。難儀なことやと思って近くの小僧さんに確かめると、とんでもない、鑑真和尚の像はどこかにしまってあって、年に一回しか見られませんかとのことであった。奥さん

はむつかしい質問をする。「能舞台の床の下に大きなツボを埋めてあるそうだがいくつか?」「誰かに聞いておきますわ」 後から調べたら 9 個だそうです。

1971 年宮崎君（現大阪医科大学名誉教授）とアンナーバーを訪問した。ついで 1998 年家内とアメリカ旅行したときアンナーバーに 2.3 日滞在して旧交を暖めた。このとき奥さんに尋ねてみた「ユダヤのお母さんは子供の教育に熱心だというが本当か?」「ユダヤ人はヨーロッパ各地で追われてきた。主人も私も祖父母の時代にロシアから逃れてきた。何時の時代でも、何処へ行っても教育さえ身につけていれば立派に生きていける。もう一つ、私たちは宝石を大事にする。小さいので持ち運びに嵩張らないし、世界中何処でも換金できるから」と。ヨーロッパ各地でユダヤ人迫害の跡を見てきたが、彼女の言葉はずしりと重かった。

数年前彼等はカリフォルニアの Ojai という田舎町に引っ越した。X'mas Card ではなく、New Years Card は今もお互いに出している。今年も間もなく用意しなければならない。

フィットネスクラブ

岩尾 洋

約20年前から軽い腰痛に罹りました。自宅と職場を車で移動しておりますと足腰が知らず知らずのうちに弱くなり、体に焼きが回りガタが来始めた様です。約18年前に、とある人から水泳が腰痛には良いと伺い、週に1回プールで泳ぐことをはじめました。大学生の頃まではプールで数Kmを泳ぐことが出来た記憶を頼りに、数十年ぶりに水泳を始めましたが、25m程で力尽きて、浮くこともままならず、下手をすると水を飲み溺れそうになりました。浮力不足で手足を始終動かしていないと沈みはじめて落ち着きません。のんびりと水泳を楽しむ境地には程遠い有様です。その間、腰痛は一進一退でした。数年は頑張りましたが水泳はどうも性に合わないのをやめてしまいました。その頃から腰痛が軽快してきたのですが、水泳の効果ではなく通勤のため電車の中で立ち、駅の乗り換えに階段の昇り降りをしたことによると知りました。と言いますのは、東京都立病院の先生のお話を聞く機会があり、その方も腰痛で悩んでおられましたが、ある時に転勤により勤務先の病院が変わり、その病院が駅から遠く20分以上歩く必要があったそうです。通勤のため歩き始めて数ヶ月すると腰痛が徐々に軽快して数年もすると腰痛を忘れるほど良くなったそうです。しかし、また駅近くの病院に転勤したことにより腰痛が再発したそうです。一日に小一時間ほど歩くと良いそうですが、通勤以外で歩くには非常な努力が必要です。暑くなく、寒くなく、雨の降らない日でないと、歩く気になりません。イヌの散歩でも1時間以上だとイヌの方が家に帰りたがります。

そこでフィットネスクラブにたどり着きました。通勤途中にうまい具合にジムがあります。幻想かもしれませんが、35年以上も前の記憶を拠り所に自分は普通にスポーツが出来たと思っておりました。フィットネスクラブには身体の色々な部位の筋肉を鍛える20種類ほどのマシンがずらりと並んでいます。その中から私の希望に合う数種類のマシンの操作方を若いインストラクターに教えていただき、非常に軽い負荷をかけて、早速に張り切って運動を始めました。インストラクターから指示された負荷で10回、3セットをやってみますと、何か物足りない感じがします。もう少し負荷をかけたほうが効き目があるのではないかと自分勝手に負荷重量を上げてトレーニングを楽しんでおりました。2~3日後に体のあちらこちらに筋肉痛が出てきました。少しやりすぎたようです。筋肉痛であれば暫らくほって置くと治りますが、肩や膝の関節周囲の痛みが出てくると曲者で、なかなか痛みは引いてくれません。試行錯誤を繰り返し、インストラクターから指示された負荷で細く長くやることにしました。

ランニングマシンで歩いたり走ったりします。急にマシンから降りると体がふらふらしますので、ゆっくり歩いてからマシンから降りるように心がけてい

ます。しかし、マシンの上で長時間走っていてもあまり楽しい気分にはなれません。時々普通の道路を走るクラスがあるので参加していました。ここでも20代の若者が多く参加しますが、ゆっくりとマイペースでジョギングするのですが、マシンの時とは大違いで、翌日にはあちらこちらの筋肉痛に見舞われることから下半身の色々な筋肉を使いながら走っていることが分かります。道路は平坦のように見えても凹凸や傾斜がある上に、車や自転車や通行人などに注意しながら速度を調整しながら走るからでしょうか。

そのほかにも色々なクラスが用意されています。各自が自分のレベルに合ったクラスを選び参加して楽しめるように工夫されています。ステップのクラスでは音楽にあわせて低い台の上への乗り降りをします。大多数の20~40歳代の生徒たち（女性7：男性3）に混じりステップをやっていますが、何と自分が「どんくさい」かを実感してしまいます。それでも、たまに軽快にうまく出来ることがあったり、若いインストラクターにちょっと褒めてもらおうと楽しい気分になり、またやろうと思うものです。

他のクラスで、片足立ちでゆっくり上体を前に倒し、同じ間隔で元に戻すことを繰り返します。最初は8秒間でゆっくり行い、徐々に4秒間で、1秒間と早くしていきます。暫らくすると太ももの筋肉が笑ってきてフラフラしてきます。ついには上げていた足を床に着けることになります。ここでも自分のバランスの悪さを知ります。太極拳とよく似ているのでしょうかゆっくりと体を動かす筋肉と、素早く動かす筋肉とはまったく異なることを実感します。

普段、道を歩いているときに、ほんのちょっとした段差の蹴つまずくことがありました。いよいよ年のせいかと感じていましたが、フィットネスクラブに通うようになってからつまずく回数が激減して、最近ではほとんど無くなりました。

フィットネスクラブに通いだして良いことがありました。年に数回ですが、庭の手入れをする必要があり土を掘り起こして球根やら花苗を植え替えたりします。数日後には決まって腰や肩の周りのあちらこちらの筋肉痛でヒーヒー言っていました。ところがフィットネスクラブで軽い負荷をかけて足腰肩周りの筋肉を適当に動かしていると、なぜか筋肉痛がほとんど起こりません。何も重い負荷をかけて汗を掻きながらの筋力トレーニングをしなくとも、十分に効果があることが良く分かりました。それと年に1~2回しかしないゴルフの翌日からの筋肉痛が非常に軽くなったことです。細く長く根気良く続けることが私には良いようです。

8ヶ月を振り返って

岡 真優子

研究室のスタッフの先生方ならびに学生さんに温かく迎え入れて頂き、あっという間に8ヶ月が過ぎました。私は、大学院生の頃から、薬理学教室にお世話になっておりましたので、親しみを覚える一方、緊張して分子病態薬理学に着任の日を迎えたのが、ずいぶん前のことのように感じています。また、6月の治学会や8月の市大フォーラムを通じて、歴史ある薬理学教室の一員となったことを感じています。

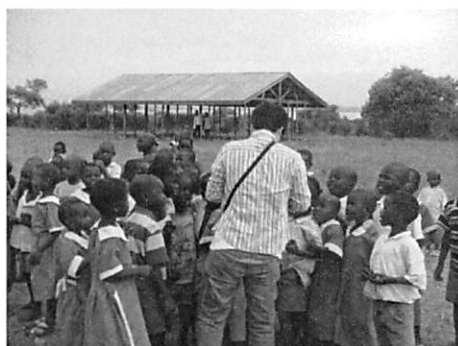
本研究室では、学部3回生の薬理学講義や学生実習を担当しています。また、来年1月から2ヶ月間配属される修業実習生を指導する予定です。この数ヶ月は、これまでの研究成果をまとめて論文にすることを中心に時間を費やしてきましたが、同時に自分を見つめ直す良い機会を持つことができました。そして、自分に欠けていることやこれから当教室で取り組むべきことが少し分かってきたように思います。自己紹介を兼ねて、これまでの自身の研究テーマを紹介いたします。私は、これまでに研究の場（所属研究室）が変わる毎に、テーマとなる病態を変えながら、細胞の低酸素応答と病態の悪化進展機構について研究を行っていました。具体的には、癌の血管新生、動脈硬化症での血管壁の肥厚、肝線維化、および肺結核肉芽腫形成と結核菌の潜在化などです。これからは、低酸素応答を中心に広げるだけでなく積み上げていく研究をしたいと思っています。これまでの多くは、培養細胞やモデル動物を使用した研究でしたが、結核研究においては、ヒトの血清を用いた臨床研究でした。この研究の目的は、現行の方法では正確に診断できない潜在性結核のための新規診断法の開発でした。そのため、これまでにない期待感を得ながら、実用化を目指していました。一方で臨床研究での材料選びの重要さを痛感させられるなど、難しさも知ることになりました。また、本研究を始めたことにより長崎大学熱帯医学研究所のケニア拠点よりお誘いを受け、ケニアでの結核感染調査の一員に加えて頂くことができました。昨年11月、本年3月に続き、10月には3度目のケニア渡航を経験しました。そこで、ケニアで行ってきたフィールドワークの内容を少しご紹介したいと思います。

関西国際空港からカタール国・ドーハ経由でケニア国・ナイロビに到着後、国内便を使って、キスムに移動しました。約1時間のフライトを経て到着した目の前には、アフリカ最大のビクトリア湖が広がっていました。私たちが拠点としたビタは、ビクトリア湖をフェリーで渡った半島にありました。人々は、湖の水を飲み、その水で選択をして生活しています。また、トイレの普及率は、30%と大変低いのが現状です。マラリアの流行地域でもあることから、小児の多くが下痢や発熱を繰り返しています。私たちは、外国の研究所が集まる施設内で、衛生的に安全な水と食事を取ることができ、また、時にはケニア産ビール（タスカ）を飲みながら仕事の疲れを癒すこともできました。

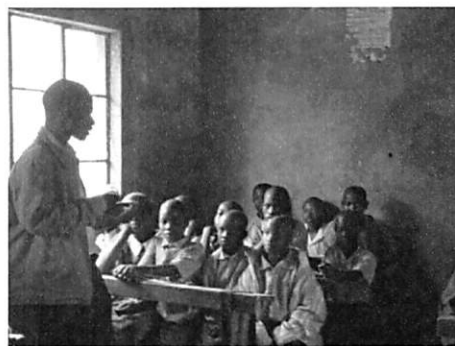
2週間で7つの小学校へ赴き、小学4年生を対象に身長・体重・体温を測定し、また血液・尿・便の採取を行いました。健康診断のため、早朝より舗装されていない道を1時間走るときもあれば、木の船にエンジンを取り付け湖に浮かぶ島に1時間かけて行った時もあり

ました。スワヒリ語でアバーリ（体調はどう）と一人ずつに声をかけ、子供たちがムズーリ（元気よ）と答えると、健康診断が始まります。私は、結核菌感染を診断するために用いる採血部門を担当していましたので、採血を怖がる子供たちに話しかけ、時には歌を歌い、採血後にはサンテサーナ（とってもありがとう）と握手を交わしました。泣いて逃げ出した子供も、最後には担任の先生に説得されて協力してくれました。このような小さな格闘があっても、小学校を後にするときには、みんなが集まって別れを惜しんでくれました。そして、一人の男の子によって校庭の一本の木に吊されたチャイムの金の音が鳴り響かされました。彼ら彼女らの夢はと尋ねると、ドクター、コック、ナースやティーチャーなど、日本の子供達と同じように目を輝かせて答えてくれます。そして、私達は言います、その夢を叶えるために感染症からしっかり身を守りましょうと。実際に、ラボに持ち帰り検査をすると、約 3 割に結核菌感染の疑いが見られ、約半数にマンスン住血吸虫の卵が見つかりました。今後は、今回の健康診断の結果を個人個人に返し、時には薬を配布し、また継続的に結核発症の有無などを調査します。

私は、ケニアの子供達から生きていることのすばらしさを改めて教えられたように思います。健康で毎日を送ることができる喜びを感じて帰国しました。しかし、ケニアのフィールド調査を行うために 2 回の薬理学実習を休んだため、研究室の皆さんにはご迷惑をおかけしました。そして渡航を許可下さったことに感謝しています。最後に、この貴重な経験とこれまでの研究を生かし、薬理学分野で切磋琢磨していきたいと思っております。



小学校の校庭にて



島の小学 4 年生達



ビクトリア湖に沈む太陽



健康診断の風景

新人紹介

高橋 延吉

私は高橋延吉（のぶよし）といます。生まれも育ちも大阪府八尾市南部で、大和川と一緒に成長してきました。出身高校は薬理学教室の実験室の窓から校舎が少しだけ見える大阪府立夕陽丘高校です。今年の春に先輩の山口さんと同じ近畿大学生物理工学部を卒業して、大阪市立大学大学院分子病態薬理学教室に入学しました。

薬理学教室に入学を決めたきっかけは当初、薬効安全学教室の三浦先生に研究室見学のメールを届けたところ、「今年は取らないので、薬理学教室を見学してみたら」との返事をいただきました。その後薬理学教室を一度見学させていただいて、興味の惹かれる内容の実験が行われていたので入学を決めました。

大阪市立大学大学院に入学して実験を始めてみると、大学時代の動物実験は殺したマウスを用いた実験がほとんどだったので、最初はひとまわり大きいラットを扱うことに慣れることでも大変でした。今となってはラットとマウスをほぼ同じ感覚で触れるまでになりました。実験動物を殺さずに麻酔を用いて実験を行うことに対してはこと細かく教えていただいたのですが、未だに慣れないうえ、麻酔の腹腔内投与を上手に打てないことがある状態です。研究室では試薬の作り方・実験方法などをこと細かく教えていただき、わからないことなどについてもあらゆるアドバイスをいただいたので、少しずつではありますが慣れてきたと感じています。

岩尾教授をはじめ、薬効安全学教室の三浦教授、泉准教授、塩田先生、岡先生、大学院生・研究生の先輩方、昨年度実習生など、薬理学教室に関わる方々にお世話になってばかりですが、これからもいろいろなことを教わりながらがんばっていきたいと思います。

大学院に入学してから8か月経過して、いまだに薬理学教室の方々についていくことが精一杯ですが、残り1年3か月の学生生活を今まで以上に実のある学生生活にしていきたいと考えています。最後になりましたが、いろいろと世話がかかりますけれどこれからもよろしくお願いします。

お世話になった先生方へ

M2 山口 麻貴

岩尾先生へ

本当にお世話になりました。普段の気さくな態度とセミナーで真剣に学生と向き合う姿のギャップに、いつも圧倒されていました。特にセミナーでは何度も先生を呆れさせたと思います。でも、岩尾先生はいつも最後まで聞いてご指導してくださいました。本当にありがとうございました。就職活動でも大変ご心配をおかけしました。先生がいつも温かく見守ってくださったからこそ、私はこの教室を無事巣立つことができます。これからも薬理の大将として時に厳しく、そして温かい「おんたい」でいてください。

三浦先生へ

いつも優しくていろいろなことを教えてくださりありがとうございました。ですが、セミナーの自分の発表に先生がいらっしゃるときは、その的確で鋭い質問にひそかに脅えていました。また学会の発表練習の際に、私のつたない話でも「面白いやないか」と研究に興味を持ってくださったときはとても嬉しかったです。研究室を卒業するまでには、先生の質問に的確に答えられるようにがんばります。

泉先生へ

学会発表の際には、夜遅くまでパワーポイントや、話し方のポイントなどの確で細やかなご指摘をしてくださりありがとうございました。また、旅行など薬理のイベントでは、幹事として至らない私のことを優しく、そしてさりげなくフォローしてくださるととても頼もしい存在でした。泉先生の姿があるだけでとても安心できました。これからも紳士的で、頼りになる存在でいてください。2年間、ありがとうございました。

岡先生へ

岡先生の助言はいつもの確で、何度も何度も助けて頂きました。まじめな話からくだらない話までどんな話にも付き合ってくださいって本当にありがとうございました。つねに研究室の雰囲気気をかけ、元気のないときには必ず話を聞いてくださる…先生はとても素敵で大人の女性でした。…と言うかむしろ保護者でした。私も先生のように笑顔で何でもスマートにこなせる女性になれるよう日々精進いたします。本当にありがとうございました。

塩田先生へ

私は本当に出来の悪い学生で、先生には最後までご迷惑とご心配をおかけしました。この2年間で先生の血圧が上がってないかが心配くらいほんとに怒られた気がします。でも塩田先生は、厳しい言葉とそれと同じくらい優しい言葉



もかけてくださいました。私は未熟で、まだまだ成長過程ですが、卒業までにはもう一段ステップアップします。結果出します。この2年間本当にお世話になりました。

田中さんへ

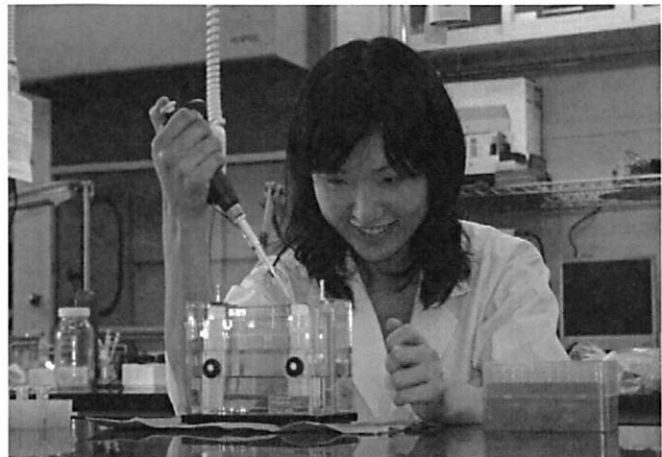
いつも心配ばかり掛けて本当にすみませんでした。「ほんまにぐはあほやなあ」といいながらも相談に乗ってくださってありが

とうございました。いつも田中さんの言うことは的確で何度も助けて貰いました。実験に対しても厳しく、テキパキと正確にこなしていく様にいつも憧れていました。私も田中さんのように、優しくて出来る女になれるよう頑張ります。本当にありがとうございました。

高橋さんへ

就活でも実験でも相談したら、文句を言いながらも最後まで付き合ってくれる。そしてへこんだときにはさりげなく慰めてくれる、高橋さんはおにいちゃんのような存在でした。実験でもセミナーでも何でもポイントはずさない的確さは本当に尊敬していました。仕事と学業の両立でとても大変なのに、それを感じさせないパワフルさを私も見習って、社会人としてがんばります。本当にお世話になりました。

研究室での生活は本当に辛かったときもありました。ですが研究室のスタッフ、そして、ご卒業された先輩方や先生に支えてもらったからこそ乗り越えることができました。改めて、自分は本当にたくさんの人に助けてもらっていることを実感しました。さらに、目標としたい方々と出会えたことは私の財産です。ここでの経験が無駄にすることなく、社会人としてがんばります。本当にありがとうございました。



一言近況報告(敬称略)

2011 年 6 月 11 日(土)に、銀座アスター(難波店) にて、治楽会の小宴を開催しました。

御案内葉書に添えた一言近況報告にご返信いただいたものをここに掲載します。皆様、お忙しい中ありがとうございました。

- ・ 浅井 利大 中尾先生が来られ、気分一新し頑張っております。
- ・ 池本 文彦 3 月 11 日の東日本震災及び関東一帯は大変ですが、少しずつでも、立ち上がりつつありますので楽しく大阪に行けそうです。
- ・ 泉家 康宏 熊本で頑張っています。共同研究させて頂くことがあれば、よろしくお願いします。
- ・ 伊藤 勝彦 昨年 10 月から東京の北里大学で治験の元締めをやっています。僕が関東に住むとは予想もしなかった。
- ・ 上西 泰次
恵子 今年もまだ御近所のかかりつけ医として 2 人合わせて 163 歳、頑張っております。(看護師 1 人、事務員 1 人の援助を受けて 4 人で楽しんでいます。)
- ・ 榎原 恒之 大学生・高校生・中学生の親となっております。
- ・ 太田垣 京子 お顔見知りの先生方が、だんだんと少なくなり、淋しい限りです。お陰様で私は何とか健康を保ちながら毎日を送っております。お教室のご繁栄と御盛会をお祈り致します。
- ・ 勝島 佳世 いつもお声をかけて下さり有り難うございます。お陰様でかわりなく過ごしております。御盛会をお祈り申し上げます。
- ・ 川本 由貴子 ポチポチ元気でやっています~!!皆様に会えるのを楽しみにしています。

- ・ 栗村 光 相変わらず週末は愛媛にて、在宅診療しております。今後とも
よろしく願います。

- ・ 杉田 清美 今回の地震の被害に遭われた地域の先生方には、心よりお見舞
い申し上げます。当日、父の物事で京都へ参る予定で、欠席さ
せて頂きますが、御盛会をお祈り致しております。

- ・ 杉原 舞有子 社会人2年目。仕事量が増え、毎日忙しくしています。

- ・ 高折 和男 父が胸部大動脈癌の手術をするため昨年9月末、大学を退職し
ました。現在は父の医院の手伝いをしています。

- ・ 高田 豊和 参天製薬に戻りました。
洋子

- ・ 辻 満智子 相変わらずお茶や手びねり等して楽しんでおりますが、このと
ころ体調に自信がなく血清記させていただきます。

- ・ 手島 皓一 高齢のため失礼致します。御盛会を祈ります。

- ・ 中西 均 最近名古屋市圏内が行動範囲です。先生の御健康と教室の発展
をお祈りしています。

- ・ 中原 静代 長く山登りをしておりますが、少々腰痛あり。散歩になりそう
なこのごろです。泉州地方に住んでいることを幸せに感じ楽し
んでいます。

- ・ 中村 敏子 病院が4月から独法化して、少しずつ変化があります。

- ・ 中村 益久 昨年暮れの脳梗塞以来、右足の脱力が残り遠出は控えておりま
す。身辺整理の日々です。皆様によりしくお伝え下さい。

- ・ 西村 敬治 研究所の閉鎖から7年が経ち、今は主に抗ガン剤の申請（非臨
床）の仕事です。

- ・萩原 善行 皆様の御活躍に元気づけられております。
- ・日下部 裕美 節電で街が少し暗いですが、慣れました。今までが明るすぎたのかもしれませんが。GWにケアンズに行き、美しい星空に感動しました。東京でも星が見たいです。
- ・東尾 尚宏 先端医療センターを本年3月末で定年退職させて頂きました。その節はお世話になり有難うございます。現在は町の各種の行事、風習、その他で日々過ごしています。
- ・疋田 優子 4月から解析センターに異動になり、出張がなくなりました。
- ・蛭間 政和 平々凡々の生活、百姓さんに似た程度です。記録するのが恥ずかしい位です。
佳子
- ・広石 隆 元気で過ごしています。今年8月で、後期高齢者の仲間入りです。盛会を祈っています。
- ・松浦 健司 昨年マラソンをはじめ、2回完走しました。今年は記録更新を目指します。
- ・松島 成夫 リタイヤして早5年になります。
- ・松村 靖夫 薬学教育6年制完成年度で振り回される毎日です。
- ・光實 茂 高齢のため体調不良につき外出を控えております。残念ながら欠席させて頂きます。
- ・南野 優子 御無沙汰しております。お変わりございませんか。私は学生から教員と大きく立場が変化し、学ぶことが多い毎日です。現在は研究活動、病院の業務と元気に頑張っています。
- ・宮崎 瑞夫 相変わらず遊び指向の生活を送っています。

- ・ 文 沙俣 想像していたよりもかなりハードな研修ですが、なんとか頑張っています。
- ・ 安田 俊吉 老魂加速 尊厳急落
- ・ 山下 直人 東京で頑張っています。
- ・ 山添 裕康 喜寿を過ぎて来年は傘壽を迎えます。まだまだホームドクターに徹して頑張りたいと思っています。
- ・ 吉本 蓉子 いつもお世話になりましてありがとうございます。毎朝森林を兼ねて1時間のウォーキングで健康を保っております。

2011 ヒトの動き

中尾隆文講師は4月から大阪市総合医療センターの血液内科の副部長に就任されました。

岡真優子先生が4月から特任講師として研究に励んでおられます。岡先生は舩江良彦名誉教授の下で学位を取り生体化学の助手、母校の京都薬科大学の助手、大阪市立大学医学研究科細菌学教室の研究員を経て薬理学教室に来られました。

修士の卒業生は社会人1年生として元気に頑張っています。

南野優子さんは、中尾先生の下で修士論文をまとめ、4月から同志社女子大学薬学部助教として頑張っています。

文 沙椰さんは、塩田先生の下で修士論文をまとめ、4月から EPS で頑張っております。

山下直人君は、泉先生の下で修士論文をまとめ、4月からジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社エチコン エンドサージェリー ジャパン事業部で頑張っております。

博士課程学生

田中昌子

日本学術振興会特別研究員-D2 に採用され特別研究員奨励費が支給されます。応募者544名の中から116名が選ばれ、その中に入りました。

修士課程学生

山口麻貴

近畿大学生物理工学部を卒業して修士課程に入学し、塩田先生の下で研究に励んでおります。就職も決まり修士論文の仕上げに頑張っています。4月から新大阪の株式会社リニカルに就職予定です。

高橋延吉

近畿大学生物理工学部を卒業して修士課程に入学しました。泉先生の下で研究に励んでおります。

大学院研究生

高橋克之

岡山大学医歯薬総合研究科修士課程を修了し市大医学部附属病院の薬剤師の仕事をしてしながら、引き続き大学院研究生として研究に来られています。

教室秘書

岩山佳代

神戸女学院大学文学部英文科を卒業して、この春から教室付きの秘書としてこられました。

第 19 回 大阪市大フォーラム

2011 年 8 月 11 日（木）、あべのメディックス 6 階研修室におきまして夏の研究会を開催致しました。

発表演題 13 題、そして活発な質疑応答。

皆様のお陰を持ちまして盛会となりました。ご多忙の折、また遠路、本当にありがとうございました。

プログラム（敬称略）

1. 13:05-13:22

虚血性急性腎障害に対する新規選択的 γ -glutamyl transpeptidase 阻害薬の保護効果について 田中 亮輔（大阪薬科大学 病態分子薬理学）

2. 13:22-13:39

生理活性物質アラキドン酸エポキシド(EET)の代謝酵素、可溶性エポキシド加水分解酵素(sEH)の新規機能解析 大黒 亜美（関西学院大学）

3. 13:39-13:56

欠神発作モデル Groogy ラットにおける抗てんかん薬 λ レベチラセタムの作用評価とシナプス小胞蛋白 SV2A の発現解析 奥村 貴裕（大阪薬科大学 薬品作用解析学）

4. 13:56-14:13

麻酔ラットにおけるアゴニストによる内皮依存性血圧下降は gap 結合を介する 小渕 修平（兵庫医療大学薬学部 薬理学）

5. 14:30-14:47

ピロカルピン側頭葉てんかんモデルにおけるアストロサイト Kir4.1 チャネルの発現解析
長尾 侑紀（大阪薬科大学 薬品作用解析学）

6. 14:47-15:04

高脂肪食負荷肥満マウスにおける鉄吸収動態の変化
山野 範子（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 薬理学）

7. 15:04-15:21

メガリンは病的副甲状腺で発現が低下する

山形 雅代 （大阪大谷大学薬学部 臨床薬理学）

8. 15: 21-15:38

アルブミンとアンジオテンシノーゼンはそれぞれ異なるメカニズムにより尿中に出現する -In vivo ライブイメージングによる解析- 中野 大介 （香川大学医学部 薬理学）

9. 16:55-16:12

ADHD モデルラット SHRSP における脳内 Fos 発現解析と methylphenidate の作用評価

増井 淳 （大阪薬科大学 薬品作用解析学）

10. 16:12-16:29

腸間膜動脈周囲神経からのノルエピネフリン遊離におけるアンジオテンシンⅡの役割

南 亜希子 （大阪薬科大学 病態分子薬理学）

11. 16:29-16:46

虚血皮弁生存に対する PHD 阻害剤の効果

高久 暢 （徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 薬理学）

12. 16:46-17:03

本態性振戦モデル Tremor ラットを用いた β 受容体遮断薬の作用機序解析

三好 慧 （大阪薬科大学 薬品作用解析学）

13. 17:03-17:20

慢性炎症と hypoxia-inducible factor-1

岡 真優子 （大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学）

閉会の辞 岩尾 洋

****御出席者名簿（敬称略、順不同）****

当日受付にて御記帳いただいた方を掲載しております。

☆大阪薬科大学 病態分子薬理学

松村 清夫 大喜多 守 青木 桃子 伊藤 講平 小山 武志 田中 亮輔
小山 真季 木内 美花 鍛冶 千紗都 重松 那津子 澤野 達也 山岸
紀子 吉川 侑里 増井 淳 佐藤 晃大 南 亜希子 先崎 郁美
和田 高明 矢沢 麻貴 細川 知基 坪田 亜香里 前原 るみ 盛尾 明
希 江見 昌之 山口 彩樹 竹内 督尚 永井 佐知恵 西岡 慧
河野 看貴

☆大阪薬科大学 薬品作用解析学

向井 浩崇 徳留 健太郎 長尾 侑紀 増井 淳 多田羅 絢加
南本 翔子 大野 行弘 奥村 貴裕 奥田 葵 三好 慧 田中 智也
木津 朋也 水口 裕登

☆関西学院大学 理工学部 生命科学科

今岡 進 大黒 亜美

☆大阪大谷大学 臨床薬理学講座

雪村 時人 山形 雅代 筒居 秀伸 三嶋 梨花 岡田 真代実
下條 真未 手打 紗央里 米原 哲也 東條 歩美 久樹 奈津美
徳富 仁美 吉田 周平 友寄 未来 森 有希絵 角田 愛 盆子原 唯

☆香川大学医学部 形態・機能医学講座 薬理学

西山 成 中野 大介

☆兵庫医療大学 薬学部医療薬学科

安屋敷 和秀 小淵 修平

☆徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 薬理学

玉置 俊晃 富田 修平 木平 孝高 池田 康将 山野 範子 石澤 有紀
石澤 啓介 仙崎 雄一 今岡 正樹

☆滋賀医科大学 医学部 薬理学
田和 正志 今村 武

☆ 大阪市立大学 薬効安全性学
三浦 克之 立石 悠

☆ 大阪市立大学 大学院医学研究科 分子病態薬理学
岩尾 洋 泉 康雄 塩田 正之 岡 真優子 田中 昌子 山口 麻貴
高橋 延吉

2011 年 論文発表

1. The antifibrotic agent pirfenidone inhibits angiotensin II-induced cardiac hypertrophy in mice. Yamazaki T, Yamashita N, Izumi Y, Nakamura Y, Shiota M, Hanatani A, Shimada K, Muro T, Iwao H, Yoshiyama M. *Hypertens Res* (査読有り) Aug 25.doi:10.1038/hr.139 2011
2. Generation of a rat monoclonal antibody specific for hsp72. Tanaka M, Shiota M, Okada S, Harada A, Odawara J, Mun S, Iwao H, Ohkawa Y. *Hybridoma (Larchmt)* (査読有り) Aug 30(4):397-400, 2011
3. Severe prekallikrein deficiency due to a homozygous Trp499Stop nonsense mutation. Nakao T, Yamane T, Katagami T, Shiota M, Izumi Y, Samori T, Hino M, Iwao H. *Blood Coagul Fibrinolysis* (査読有り) Jun 22(44):337-339, 2011
4. Pravastatin-induced proangiogenic effects depend upon extracellular FGF-2. Shiota M, Hikita Y, Kawamoto Y, Kusakabe H, Tanaka M, Izumi Y, Nakao T, Miura K, Funae Y, Iwao H. *J Cell Mol Med* (査読有り) 2011 [in press]
5. Passive Exercise Using Whole Body Periodic Acceleration Enhances Blood Supply to Ischemic Hindlimb. Rokutanda T, Izumiya Y, Miura M, Fukuda S, Shimada K, Izumi Y, Nakamura Y, Araki S, Hanatani S, Matsubara J, Nakamura T, Kataoka K, Yasuda O, Kaikita K, Sugiyama S, Kim-Mitsuyama S, Yoshikawa J, Fujita M, Yoshiyama M, Ogawa H. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* (査読有り) 2011 [in press].
6. IL-6-mediated Th17 differentiation through ROR γ t is essential for the initiation of experimental autoimmune myocarditis. Yamashita T, Iwakura T, Matsui K, Kawaguchi H, Obana M, Hayama A, Maeda M, Izumi Y, Komuro I, Ohsugi Y, Fujimoto M, Naka T, Kishimoto T, Nakayama H, Fujio Y. *Cardiovasc Res* (査読有り) 91: 640-648, 2011

7. Severe prekallikrein deficiency due to a homozygous Trp499Stop nonsense mutation. Nakao T, Yamane T, Katagami T, Shiota M, Izumi Y, Samori T, Hino M, Iwao H. Blood Coagul Fibrinolysis (査読有り) 22: 337-339, 2011

8. Safety assessment of electronic cigarettes in smokers. Miura K, Kikukawa Y, Nakao T, Tokai H, Izumi Y, Fujii H, Hojo T. Seikatsu Eisei (査読有り) 55: 59-64, 2011

9. In vivo proarrhythmia models of drug-induced long QT syndrome: Development of chronic atrioventricular block model of microminipig. Sugiyama A, Nakamura Y, Akie Y, Saito H, Izumi Y, Yamazaki H, Kaneko N, Itoh K. J Pharmacol Sci (査読有り) 115: 122-126, 2011

10. Microminipig, a non-rodent experimental animal optimized for life science research—novel atherosclerosis model induced by high fat and cholesterol diet. Kawaguchi H, Miyoshi N, Miura N, Fujiki M, Horiuchi M, Izumi Y, Miyajima H, Nagata R, Misumi K, Takeuchi T, Tanimoto A, Yoshida H. J Pharmacol Sci (査読有り) 115: 115-121, 2011

11. Microminipig, a non-rodent experimental animal optimized for life science research—preface. Kaneko N, Itoh K, Sugiyama A, Izumi Y. J Pharmacol Sci (査読有り) 115: 112-114, 2011

12. A histone-like protein of mycobacteria possesses ferritin superfamily protein-like activity and protects against DNA damage by Fenton reaction. Takatsuka M, Osada-Oka M, Satoh EF, Kitadokoro K, Nishiuchi Y, Niki M, Inoue M, Iwai K, Arakawa T, Shimoji Y, Ogura H, Kobayashi K, Rambukkana A, Matsumoto S.: PLoS One. 2011;6(6):e20985. Epub Jun 16.2011

学会発表

第 15 回 酸素ダイナミクス研究会 9 月 11 日 佐賀

結核菌感染による肺肉芽形成と低酸素応答転写因子に活性化

岡 真優子、松本 壮吉、岩尾 洋

第 64 回 日本細菌学会関西支部総会 11 月 19 日 大阪

マクロファージ内結核菌増殖における宿主グルコース代謝の重要性

岡 真優子、合田 亘人、曾我 朋義、尾関 百合子、小林 和夫、松本 壮吉、

第 40 回日本心脈管作動物質学会、2 月 4-5 日、香川

心肥大に対する抗線維化薬の効果

泉 康雄、山下 直人、高橋 克之、田中 昌子、南野 優子、文 沙椰、山口 麻貴、塩田 正之、
中尾 隆文、岩尾 洋

European Society of Cardiology – Heart Failure 2011、5 月 21-24 日、Gothenburg, Sweden

Tolvaptan Improved Cardiac Function in Rats with Myocardial Infarction; Beyond to Diuretic
Action. T. Yamazaki, Y. Nakamura, Y. Izumi, A. Hanatani, K. Shimada, T. Muro, H. Iwao, M.
Yoshiyama

第 38 回日本トキシコロジー学会学術年会 7 月 11-13 日 横浜

薬剤性 QT 延長評価モデル動物としてのマイクロミニピッグの有用性

桑野 康一、松下 大輔、平山 知子、本門 忠文、和泉 博之、川口 博明、泉 康雄、杉山 篤

European Society of Cardiology Congress 2011、8 月 27-31 日、Paris, France

Percutaneous Carbon Dioxide Gas Mist Ameliorates Cardiac Remodeling after Myocardial
Infarction in Rats. T. Yamazaki, Y. Nakamura, Y. Izumi, A. Hanatani, K. Shimada, T. Muro, H. Iwao,
M. Yoshiyama

第 15 回日本心不全学会学術集会 10 月 13-15 日 鹿児島

バソプレシン V2 レセプターアンタゴニストはラット陳旧性心筋梗塞の心筋リモデリングを抑制する
山崎 貴紀、中村 泰浩、泉 康雄、花谷 彰久、室生 卓、葭山 稔

第 34 回日本高血圧学会総会 10 月 15-17 日 福岡

ラット心筋梗塞モデル慢性期に対するバソプレシン V2 受容体拮抗薬トルバプタンの効果

泉 康雄、中村 泰浩、山崎 貴紀、花谷 彰久、島田 健永、室生 卓、葭山 稔、岩尾 洋

Ⅱ 度以上新規高血圧治療に対する高用量 ARB 投与と ARB・CCB 併用の降圧効果

中村 泰浩、泉 康雄、山崎 貴紀、花谷 彰久、島田 健永、室生 卓、葭山 稔

第 21 回日本循環薬理学会 12 月 2 日 岡山

心筋梗塞後の心臓リモデリングに対するバソプレシン V2 受容体拮抗薬の効果

泉 康雄、中村 泰浩、山崎 貴紀、花谷 彰久、島田 健永、室生 卓、葭山 稔、岩尾 洋

The 6th International Symposium 2011 Kyoto (2011.4.1-4.2)

Pravastatin-induced angiogenesis depends upon FGF-2/FGFR activation.

Shiota, M, Hikita, Y, Yukiko, K, Tanaka, M, Kusakabe, H, Izumi, Y, Nakao, T, Iwao, H.

第 84 回日本薬理学会年会 横浜 2011.3.22-24 誌上開催

Hsp70s インタラクトーム解析による障害タンパク質の高効率同定

塩田正之、文沙耶、田中昌子、中尾隆文、泉康雄、三浦克之、岩尾洋

第120回 日本薬理学会近畿部会 京都 11 月 11 日

FGF-2 機能阻害抗体の作製と血管内皮細胞に対する作用の解析

山口麻貴、塩田正之、田中昌子、岡真優子、泉康雄、三浦克之、大川恭行、岩尾洋

編集後記

はじめまして。編集後記を担当させていただきます岩山佳代です。今年の4月からこちらの教室で秘書としてお世話になっております。いつも失敗ばかりで先生方の負担を増やしているだけなのですが岩尾先生をはじめ、心の広い先生方と院生さんに恵まれているおかげで出勤できています。そして、皆さんが真面目に実験に取り組んでいる姿を横目に紅茶とお菓子を頂いています。ほとんど私が封を開けているので食いつばぐれがないのは役得ではないでしょうか。もっと高尚な文章を書く予定だったのですが、気づけば締め切り間近ですのでこのあたりで終わらせて頂きます。来年度こそしっかりした姿をお見せできるように頑張りますので今後ともよろしくお願い致します。